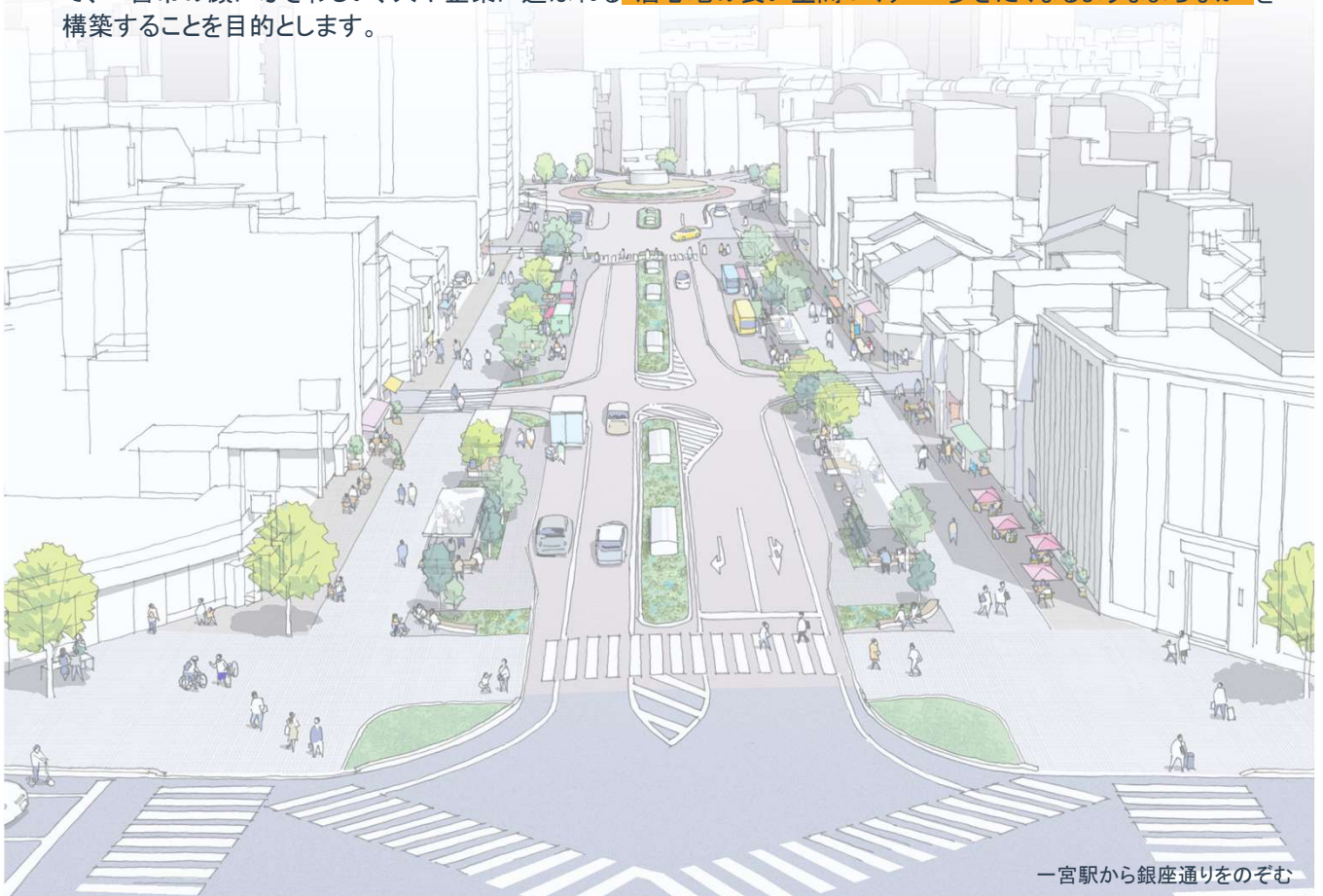


# 一宮駅周辺地区デザイン計画 2026年6月 / 概要版

この計画は、一宮市の顔である一宮駅周辺地区において、個別の空間資源や人の営みをつなぐことで新たな価値や動きを広げ、多様な人と場所が広がる**ウォーカブルシティの形成**を目指すものです。

人が主役となることができ、誰もが暮らすだけでなく働ける・稼げるまちに転換し都市機能を引き込める素地として、一宮市の顔にふさわしい、人や企業に選ばれる**“居心地の良い空間づくり”** **“歩きたくなるようなまちなか”**を構築することを目的とします。



## 一宮駅周辺地区が目指す姿

### ①人中心のまちづくりへの転換

- 一宮駅から本町通りに至るまでの主要動線を、一宮市の玄関口として**“このまちで暮らしたい！働きたい！”**と思える**「人中心の空間」**にします。

### ②都市拠点としての役割

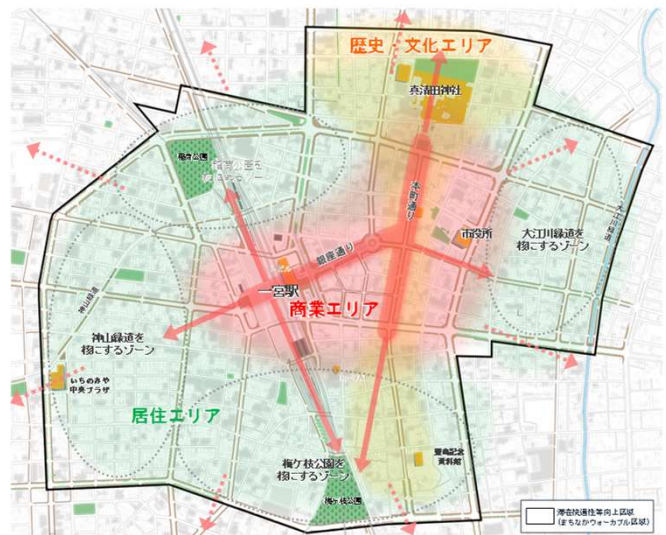
- 一宮市の中心部に位置する一宮駅周辺地区は、一宮駅を核として、尾張地域の中核都市である**本市の「顔」**となるにぎわいあふれるまちづくりを進めます。

### ③人の誘導とベッドタウンからの脱却

- 名古屋市と岐阜市から鉄道で約10分と交通利便性が高い立地を活かし、居住をはじめとした更なる人の誘導を積極的に図るため、**「選ばれる」まちづくり**を進めます。

## 対象エリアとゾーニング

- 本計画は、滞在快適性等向上区域(まちなかウォーカブル区域)を対象とします。
- とりわけこのエリアの**主要軸である本町通り、銀座通り**から将来デザインの展開を図ります。



# 本町通りの デザイン方針

本町通りは、かつて真清田神社の参道であり、門前の三八市を発祥として現代の商店街が形成されてきた歴史ある通りです。アーケードを活かした商店街らしさと参道らしさ、多様な活動が両立する、“笑顔で歩いて暮らせる「本町ぐらし」のある通り”を目指します。

## 【デザインコンセプト】

- ①門前町としての風景創出を支える活用しやすく、**落ち着いた街路景観**
- ②アーケードや道路占用物を活用した**参道らしさや商店街らしさを生む風景の演出**
- ③将来的な沿道の更新や誘致につながる、**多様な利活用を促進する仕組みとそのデザイン**

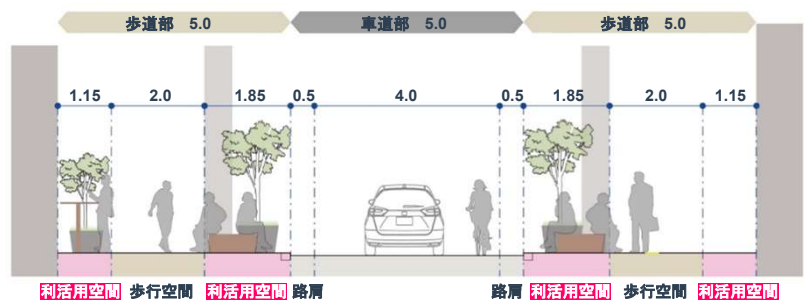


本町通二丁目商店街から本町通四丁目商店街のイメージ

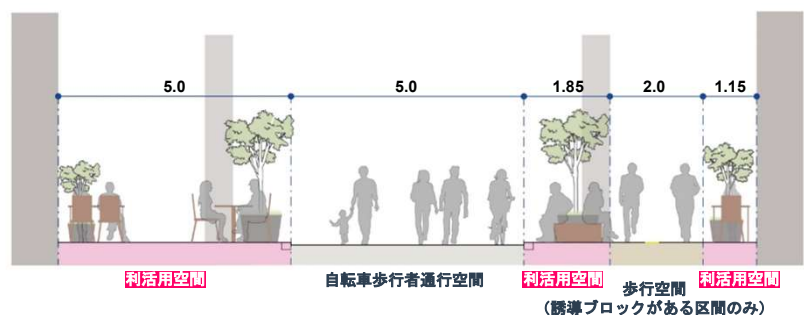
## 本町通りの基本構成

- ・**現在と同様の交通規制**（一方通行及び11時から20時までは車両通行規制）のまま、車道幅員を7.0から5.0mへと縮小し、現在よりゆとりのある歩行空間を確保します。
- ・中央の車道部は、車両通行時（20時～11時）は自動車・自転車が通行する空間として、車両通行規制時は歩行者・自転車の通行空間として使用します。
- ・両端の歩道部は、車両通行規制時には、視覚障害者誘導用ブロックに必要な空間を除き、**全面的に利活用が可能な空間**とします。沿道店舗による道路空間の多様な利活用を促します。

### 車両通行時（20時～11時）



### 車両通行規制時（11時～20時）

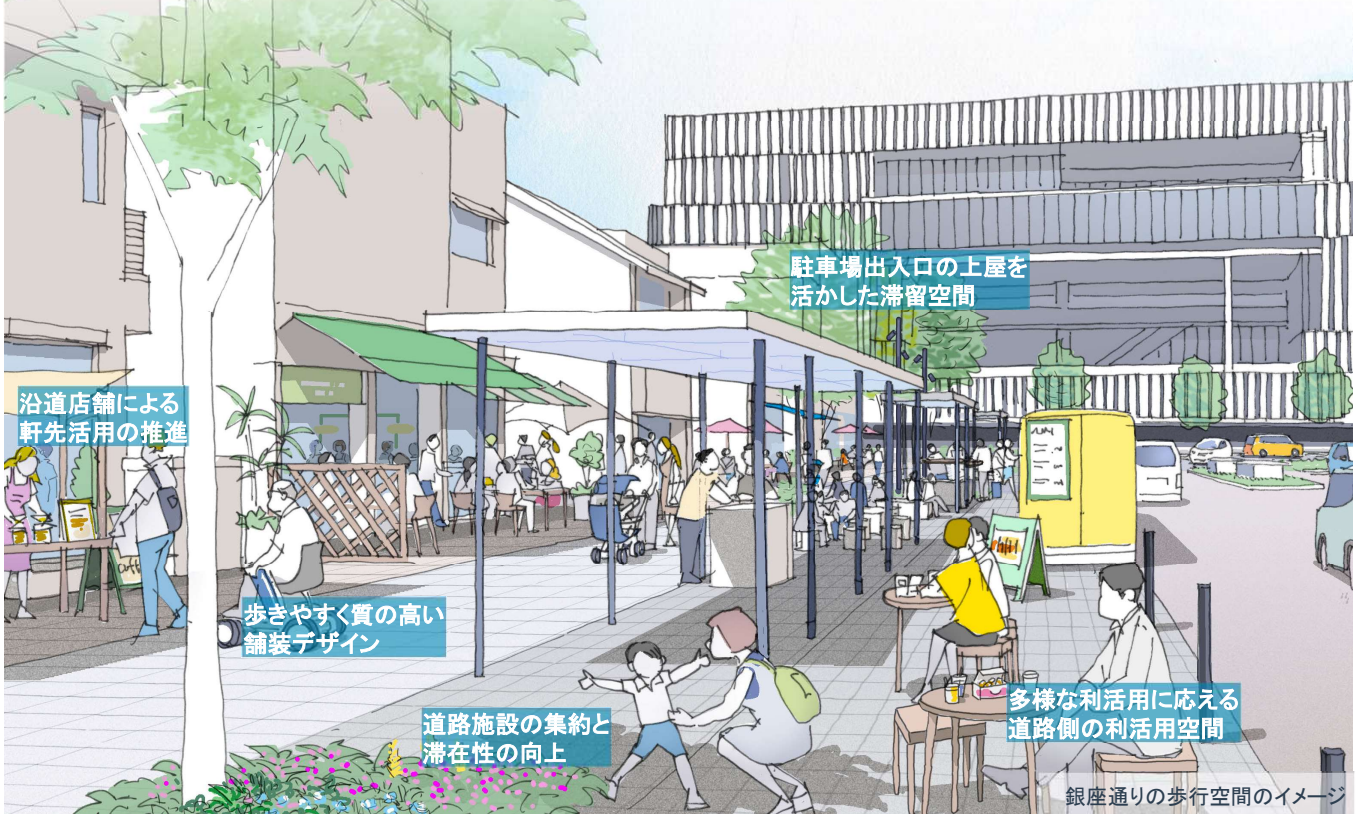


# 銀座通りの デザイン方針

銀座通りは、一宮市の玄関口にふさわしい、シンボルロードとして整備が進められてきました。駅からまちなかへと人の流れを作り、店舗の活気が店先にあふれ、様々なチャレンジを生み出す“一宮の顔となる風格と親しみのある「市民広場」通り”を目指します。

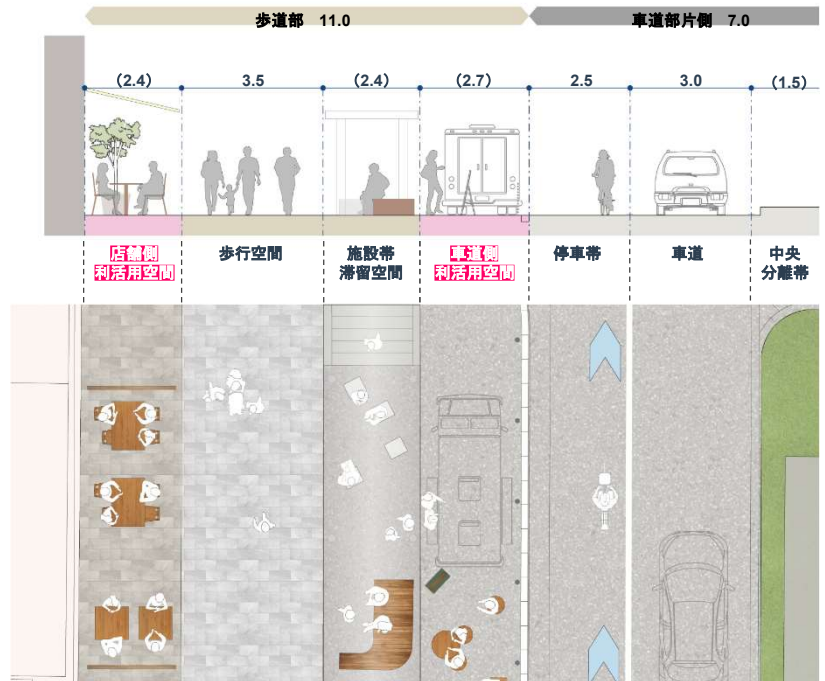
## 【デザインコンセプト】

- ① 来街者が一宮駅に訪れ、最初に目にする通りにふさわしい**風格のある街路景観**
- ② このエリアの回遊の起点となる、**日常的に居心地のよい歩行／滞在環境の充実**
- ③ 土地利用／都市機能の誘致や集積につながる、**通りの活用に向けた設え**



## 銀座通りの基本構成

- **現在の道路構成**(車道及び歩道の幅員構成)のまま、広い歩道空間を、沿道店舗が利活用する「店舗側利活用空間」、歩行者が通行する「歩行空間」、道路施設や植栽、ベンチ等の滞留施設を集約した「施設帯・滞留空間」、多様な利活用の受け皿となる「車道側利活用空間」に分け、歩行と利活用が共存する歩道環境を目指します。
- 「施設帯・滞留空間」には、**植栽や地下駐車場歩行者用出入口の上屋と一体的な滞留空間を整備し**、夏の日差しや雨をしのげ、安心、快適に滞留できるスポットの設置を検討します。
- 車道側の利活用空間においては、舗装の車両乗入れへの対応など、キッチンカーや出店、ワークショップなど、**様々な活動を展開しやすい道路構造を検討**します。



# 今後の予定

## ほこみちの活用

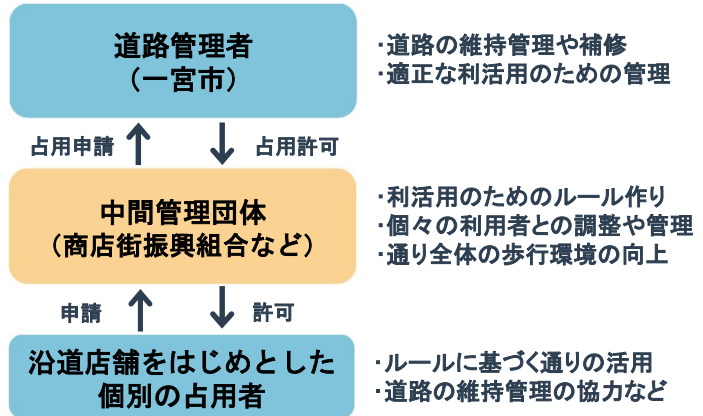
ほこみちとは、道路を「通行」以外の目的で柔軟に利用できるようにするものです。この制度によって道路空間を活用する際に必要となる道路占用許可が柔軟に認められるようになります。この制度を活用すると、たとえば、幅の広い歩道にオープンカフェやベンチなどを置いて、歩行者にとって便利でにぎわいあふれる空間を創り出すことができます。

本町通りや銀座通りにおいては、この制度を活用することを想定しています。沿道店舗や商店街が中心となって、通りの歩道空間の多様な活用ができる仕組みを作り、様々な営みが通りにあふれるみちづくりを目指します。

### ほこみちの概要



### 道路利活用の体制イメージ



## 今後の予定

- まず本町通りの整備に着手し、その後銀座通りの整備を行います。中期的に実施する銀座通りの整備にあたっては、本計画で将来像として示したデザイン方針をもとに実際の整備内容を検討し、長期的に将来デザインの実現を目指します。
- 整備と並行して、整備後の利活用について、一宮まちなか未来会議と連携を図りながら検討、調整、社会実験の実施を進めます。
- 対象エリア内において新たな取り組みを検討するうえでは、様々な関係者や市民との議論や調整を行い、本計画の見直しや追加、そして計画の具体化を行います。

### ロードマップ

